

会長の挨拶 28 例会出席－その 3－

ロータリーは特定地域社会の指導的ロータリアンを各職種から、一名選任し、そのロータリアンが例会でそのアイデアを交換し、その切磋琢磨の中から高い境地を学び取り、この境地を以て自己の職場・家庭・一般社会を潤すという理論構造が与えられている。その中心の場としてクラブ例会が考えられているのである。

つまり、クラブ例会は各会員の修練の場所と考えられているのである。米山梅吉が「ロータリーの例会は人生の道場だ」と言った有名な言葉はこのことを意味するものであり、1974年までガバナーの講習会場であったレイク・プラシッド・クラブの会場の入り口には「入りて学び Enter to learn」そして出口には「出でて奉仕せよ Go forth to serve」と書かれているのは、この理論の正当なることを示す。

(小堀憲助著 『ロータリー思想の理論構造』より引用)